大西郁夫教授追悼特集の発刊にあたって

1997.1.10　島根大学総合理工学部地球資源環境学教室
徳　岡　隆　夫

はやいもので，大西郁夫先生がお亡くなりになってから，もう10ヶ月が過ぎようとしています．先生がいまにもふいに現れて，宍道湖のおいたちや近くの考古遺跡の発掘のことなどを語りかけてくれそうな気がしてなりません．聞いておきたかったことがつぎつぎと浮かんできて，そのたびごとに残念な気持と失った人の大きさが感じられる今日このごろです．

この地球資源環境学研究報告第15号は1996年6月2日に当教室で行われました大西先生を追悼する「山陰の第四紀と自然史研究集会」の特集としていただくことになりました．その際のプログラムは本稿の末尾に載せておりますが，御講演いただいた方々に執筆をお願いした次第です．御投稿いただいた各位に厚く御礼申し上げます．なお，大西先生が全国的な研究活動の場として主導的に活躍されておりました野尻湖発掘調査団・花粉グループと第四紀総合研究会のメンバーが呼びかけて，1996年11月3, 4日に三瓶山で「大西郁夫氏追悼シンポジウム」が開催されました．全国から30名以上の方が集い，日本の花粉研究と第四紀研究の現状と課題について活発な議論が行われましたが，この論文集につきましても島根大学汽水域研究センターの特別号などとして出版される予定であることをお知らせしておきます．

大西郁夫教授は1996年3月29日，肝不全のため亡くなられました．その2年ほど前に肺の腫瘍を手術され，いったん退院されて教室に復帰されて研究と教育を再開され，ほとんど回復されたかに見えていた3月になって病魔は肝臓へと転移し，不帰の客となりました．先生は3月の半ばまではいつもと変わらぬ姿で教室にあって，最後まで研究者そして教育者としての責任を果たしておられました．先生のご逝去はあまりにも早すぎた出来事でした．

先生は1937年に京都にお生まれになり，1957年に京都大学理学部入学，同大学院をへて1967年に島根大学文理学部（地学教室）に奉職され，以来30年のながきにわたって研究と教育に携わってこられました．その功績はじつに大きなものであります．研究面におきましては，当時はまだあまり注目されてはいなかった第四紀の花粉化石の研究に進まれ，大阪盆地と房総半島の鮮新・更新統の花粉化石の研究で京都大学から理学博士の学位を取得されました．それは島根大学に赴任されてからのことでしたが，島根大学においてはおもに山陰地方の層序と花粉を中心に研究を進められました．現在，この地方で使用されている第四系層序の基本は先生の貢献によるところ大であります．とりわけこの10数年間は中海・宍道湖の完新統の研究にとりくみ，花粉分帯を確立されました．この分帯は日本でもっとも詳しいものであると評価されております．自然環境の変化とともに人為的な作用も加わって変化してきた周辺山地の植生を花粉の種構成の変化から解明した先生の研究は現在進められている中海・宍道湖の環境変遷の研究の基礎であるとともに，考古学的研究においても不可欠のものとなっております．先生の御業績については本特集号に掲載させていただきましたので，そちらを御参照ください．教育面におきましては，理学部および全学レベルでの一般教育の充実に大変貢献されるとともに，教室にあっては学生の指導に熱心にとりくまれました．卒業論文やゼミにおいて先生の薫陶をうけたものは数多く，とりわけまだ文理学部地学教室であった時代にはスタッフの数も少なく，赴任まもない先生は若手の中心として学生指導に当たられました．先生の指導を受けて現在地質関係業界で活躍している者は多数にのぼります．すぐれた研究者であり，かつ教育者であった先生を中途で失ったことは，教室にとってまことに残念なことです．先生におかれましても，志半ばで旅立つことになったのはさぞ心残りのことであったでしょう．ここにこの追悼特集号を先生の御霊前にささげ，やすらかな御冥福をお祈りする次第です．また，残されたスタッフ一同，先生の残された研究を受け継ぎ，今後いっそうの教室の発展にむけて努力することをお誓いいたします．

なお，先生の残された貴重な研究資料につきましては，「大西教授記念文庫」として当教室に特別書架を設置し，これからの研究・教育に役立てていただくことに致しました．先生の著書・論文（業績集1～4），および花粉化石と第四紀の研究を中心とした蔵書，寄贈文献（別刷集1～43）を収めております．先生の一周忌には間に合わせるよう作成中ですので，どうか御利用下さるよう御案内申し上げます．